

## 平成21年度「心に響く人生の達人セミナー」講演記録

- 1 目的 自己実現へ向けて、今何が必要なのかを生徒自身が主体的に考え、実行する力を養う。また、実社会で通用する心構えを身につけ、社会に貢献できる人格の形成を図る。人生経験豊かな先輩達の講話を通して、生徒達の生きる力を育む。
- 2 日時 平成21年11月5日(木) 14:30~15:40
- 3 場所 長崎県立佐世保西高等学校 体育館2階(Wingアリーナ)
- 4 対象 全校生徒(787名)・職員(59名)および希望する保護者(31名)計877名
- 5 講師 堀口 逸子 氏(順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教)
- 6 演題 「ゲームで学ぶ感染症」
- 7 講師略歴 1962年 長崎市生まれ  
1992年 長崎大学歯学部卒業  
1996年 長崎大学大学院医学研究科博士課程修了  
(社会学系公衆衛生学専攻)  
1997年 佐世保市保健福祉部嘱託  
NPO 法人ウェルビーイング研究員  
国立公衆衛生院(現国立保健医療科学院)  
免疫部客員研究員  
2001年 順天堂大学医学部公衆衛生学教室助手  
2006年 早稲田大学スポーツ科学部非常勤講師



講師 堀口 逸子 先生

### 現在のおもな活動

厚生労働科学研究を中心に、リスクコミュニケーションや精神保健、感染症等の研究や活動支援。また、食物アレルギーとその表示に関する研究や欧の団体と連携した活動を行うNPO法人を設立、運営。新型および鳥インフルエンザのパンデミック発生時の社会現象を疑似体験できる研修教材(クロスロードゲーム)を開発。個別の課題から広く公衆衛生全体として捉えていくという視点で参加型講演の講師としても活躍中。

### 現在の研究テーマ

- 「感染症のリスクコミュニケーション」
- 「食の安全、安心、食品表示、食におけるリスクコミュニケーション」
- 「ゲーミング・シミュレーション」知育玩具等の開発。



堀口先生の御指導のもと、参加者全員がマスク着用、会場入口での消毒

## 8 講演記録

### (1) 自己紹介

長崎市で過ごした学生時代と佐世保市での勤務経験

青年期の辛い経験や、行き詰まった時にしっかり自分と向き合ったことで前へ進めた。

- ・辛い時期には失うこともあるが、人生を生きるうえで得るものの方が大きい。

大学進学や価値観の異なる親との関係

- ・「親から学費を出してもらうのは当然」と思ってはいけない。
- ・思い通りにならない現状を打破するためには、自分で判断し行動しなければならない。

現在の研究環境と研究内容

- ・感染症研究者には、医学部・獣医学部出身以外にも理・工・農・歯学部の出身者もいる。
- ・大切なことは「どこの大学に行くか」ではなく「大学で何をするか」である。

### (2) 感染症の基礎知識と対策

マスク着用、手洗い、うがい等の予防法とその効用

- ・マスクは予防効果よりも、ウイルスを拡散防止効果の方が大きいことが立証されているが、複数の予防法を併用することが望ましい。

インフルエンザの種類と新型インフルエンザの毒性、感染経路、拡大状況

新型インフルエンザの抗体保持者が高齢者に多い。

ワクチンの国内貯蓄量と生産状況

インフルエンザに感染した場合の対処法

### (3) クロスロードゲーム

老子の言葉「聞いたことは忘れる。見たことは覚える、やったことはわかる」やアメリカの研究機関による記憶研究検証結果を根拠にして、講演は以下のような形態（全員参加型）で進められた。

聴衆（生徒・保護者・職員）に対し「感染症」・「危機管理」等に関する質問を行う。

質問は二択回答形式で、聴衆は「YES」（賛成する）の場合は青カード、「NO」（賛成しない）の場合は赤カードを全員同時に挙げる。

講師はフロアを自由に移動し、参加者（生徒・保護者・職員）から数名を指名する。指名された参加者は、回答の理由をマイクで発表する。

講師は、それぞれの回答、または回答全体を総括する形で、参加者が考えを深められるような解説を行う。

参加者は他の人の意見に耳を傾け、様々な考え方や価値観があることを実感する。

次の質問に移る。全部で11問の質問が行われた。



\* 講演形態が全員参加型のため、参加者の意見も記録  
ただし、回答の理由については参加者の個人的な意見です。

① **あなたは…スーパーのアルバイトです**

店長に言われて香川産と大阪産のきゅうりをパック詰めしていたら、箱をひっくり返してしまい、どれがどこの産地のものかわからなくなってしまった。  
あなたは…店長に報告する？

YES (報告する) ↔ NO (黙っておく)

① 生徒の回答の多数が「YES」

Y : 「ニュースになるから」  
「消費者に悪い」  
「嘘をつけない」

N : 「たぶん、ばれない」

② **あなたは…高校3年生です**

受験会場で、目の前に座った試験監督者の咳がひどい。あなたは…席を移動してもらうように言う？

YES (言う) ↔ NO (黙っておく)

② 回答のほとんどが「NO」

N : 「なかなかはっきりと言えない」  
「言ったら相手にどう思われるか不安」  
「試験監督に悪い、相手に対して失礼」  
「集中して受験できない」

アドバイス

一生を左右する受験で、身の安全を脅かす緊急事態に対しては物怖じせずにはっきりと意見を主張する必要がある。言い方を工夫して相手に自分の意志をはっきり伝えることが大切。

③ **あなたは…港近くの住民です**

港に停泊中の海外船籍の船員が連れて歩いている犬がよよろしている。病気かもしれないと思う。  
念のため保健所に通報する？

YES (通報する) ↔ NO (様子を見る)

③ 回答の多数は「NO」

N : 「そんなに心配することじゃないと思う」

アドバイス (狂犬病について)

- ・ 狂犬病は噛まれて感染した場合、100%死に至る。
- ・ 韓国では感染報告があり、国境に近く海外との交易もある佐世保は狂犬病に対する意識が必要である。
- ・ 海外で犬にはあまり近づかない方がよい。

④ **あなたは…高校3年生です**

新型インフルエンザが大流行。高校も休校になった。明日から塾の受験直前集中講義が始まるが、どうも昨日から熱っぽい。  
あなたは…塾へ行く？

YES (行く) ↔ NO (行かない)

④ 回答の多数は「NO」

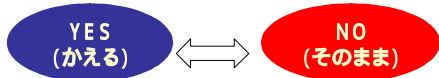
アドバイス (マスクの正しい着用方法)

- ・ 鼻にもかける
- ・ マスクの外側を触らない

⑤

あなたは…高校生です

本日運動会の打ち上げでファミレスへ。ところが、昨日そこへ行った知り合い何人かが下痢をしたと友人から言われた。店は平常通り営業しているが…念のため店を変える？



⑤回答の多数は「YES」

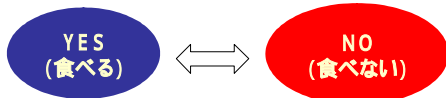
アドバイス

- ・サイコロステーキは成型肉、いろいろな肉を固めているので感染の可能性は高くなる

⑥

あなたは…高校生…です

部活の打ち上げで焼き肉屋へ。友達が好物の生レバーをここは新しくおいしいからとすすめる。そういえば、テレビのグルメ番組でも見たことがある…食べる？



⑥回答は半数に二分

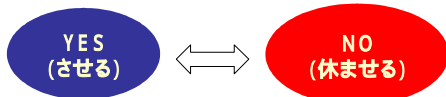
アドバイス

- ・生レバーを処理できる工場は全国でも10カ所程度
- ・牛生肉にはカンピロバクター菌を保有する可能性がある。
- ・感染率の高い20代男性や小児は食べるかどうかは自己責任になる。

⑦

あなたは…母親…です

小学生の息子が新型インフルエンザにかかった。お兄ちゃんのほうは大学受験を控えている。高校に登校させる？



⑦回答の多数は「YES」

アドバイス（家庭内感染について）

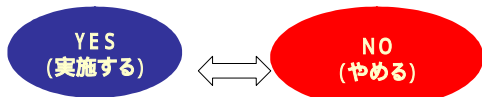
- ・家族が感染した場合、部屋を別にし、家庭内感染を防ぐ。
- ・感染者をひとりにする。

（質問 ⑧ 省略）

⑨

あなたは…高校校長…です

新型インフルエンザが大流行の兆し。2週間後に勤務する高校の修学旅行。保護者からは、心配の電話がかかってきている。もし中止にしたら、キャンセル料を払わなければならないが、そのお金は準備できていない。修学旅行を実施する？



⑨生徒の回答のほとんどは「YES」

職員の回答の多数は「NO」

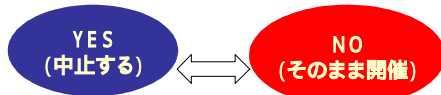
関東研修旅行直前の時期、生徒の反応が最も大きかった質問

N：「生徒の生命が一番大切」

⑩

あなたは高校校長...です

生徒に麻疹(はしか)の患者が発生。折しも明日から文化祭で生徒は楽しみにしている。教育委員会は開催するかどうかは校長に任せるといっている。あなたは...中止を勧める？



⑩生徒の回答の多数は「NO」

反応の大きかった質問

N：「楽しみにしているから」

アドバイス（实例紹介）

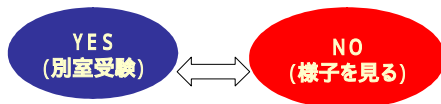
・ある大学の文化祭の例、億単位の収支が決断に影響した。苦渋の決断で実施を決定。

⑪

あなたは...高校校長です

入試の会場に、顔に発疹のある中学生がいるという連絡があった。中学や保護者からは病気という連絡はない。

別室受験させる？



⑪生徒の回答のほとんどは「NO」

Y：「対策は万全がよい」

N：「発疹だけではニキビとの区別がつかない」  
「わからない」

#### (4) まとめ

感染症は、予防法と対処法を自己責任で行う。(基本は手洗い)

社会には一つの正解がないことが多い。自分で判断する力をつける。

・情報を集める(進学・大学に関しては、先輩等から生の声を聞くことも大切)

相手の立場になって考える(立場が異なれば判断結果も異なることがある)

社会の様々なことに興味を持ち、わからないことは恥ずかしがらずに「聞く」。

相手の話を「聴く」。

「以心伝心」はありえない。わかりやすく伝える技術を持つ。的確・適切な表現を用いる。

わからないことは「調べる」。

正しい情報か考える「判断する」。

自分で決める。

人と比較しない。

講演は、新型・鳥インフルエンザ等の感染症や危機管理に関する基礎知識・最新情報に関する内容でした。「感染症」・「危機管理」というテーマを通じて、人生を生き抜くために個人に求められる情報収集力・判断力・行動力へと展開しました。危機管理の事例をクロスロードゲーム形式で疑似体験することにより、生徒達は当事者意識を持って楽しく学習することができました。先生は講演を通じて、人生の大切なメッセージも発信されました。



## 9 感想

生徒の感想については、講師の堀口先生が準備した指定の書式を用いた。様式は箇条書き形式で、以下の項目について代表的な感想を原文のまま抽出した。

### (1) 生徒感想

私が「気づいたこと」は...

- ・自分が当然だと思っていたことが、周りの人と違っていたこと。
- ・世の中には「YES」「NO」どちらとも言い難いことがたくさん存在していて、その中で自分が決定していかなければならないこと。
- ・自分と違う意見や少数意見でも良い意見はたくさんあるし、そういう意見もちゃんと尊重することが大事だということ。また、自分の意見には責任を持つこと。
- ・「以心伝心」はあり得ないので、自分の気持ちを大切に、自信を持たなければならないということ。
- ・危機管理に関して、自分が普段どれだけ無防備で、危険性を考えていないかということ。
- ・自分自身の感染症に関する意識がかなり低かったということ。
- ・身近なところに感染症の危険が潜んでいて、感染するかもしれないかは、自分の行動によって左右されること。
- ・心の中で思っている、実際には言えないことも多い。咳をしている人が目の前にいても自分がどう思われるのかと考えたら、実際に「座席を移動させてください」とは言えないと思う。
- ・「感染症」に対する判断は、その人の立場や考え方、情報量で変わってくるのがわかった。
- ・「普通、こうでしょ」と思っていることでも他の人の意見を聞いてみると、意外と納得できたりするところがある。
- ・学校行事や学校全体で取り組むことは、実施するのも中止するのも大変なんだとわかりました。決断にはそれなりの責任が伴うんだと思いました。
- ・一番始めの話にあったように、親からお金を出しもらったりすることは当たり前ではないということ。
- ・新型インフルエンザが流行したから、修学旅行を中止するかという質問で、校長先生は、全体を考えながら決断しなければならないので大変なんだとわかった。
- ・先生や大人の立場に立って考えなければならない質問に答えるのが難しく、決断を迫られている感じがした。
- ・つい周囲に合わせてしまう時がある。ちゃんと自分の意志を持っているのに...。それは「KY」になることを恐れているからだろう。自分の気持ち、意見、考えを人に伝えるのは難しい。

私が「驚いたこと」は...

- ・私が当然「YES」だと思っていたことが、他の人から見れば「NO」だというように自分と全く反対の意見を持つ人がたくさんいたこと。
- ・ウイルスは鼻や口だけでなく目や体からも入ること。
- ・マスクは感染症予防ではなく、人に移さないためのものだという事は知りませんでした。本当に驚きました。
- ・日本は先進国でありながら、感染症研究が他の国と比べてあまり進んでいないと先生がおっしゃったこと。
- ・感染症研究は医学部だけでなく、理学部や農学部を卒業した人でもできるということ。
- ・発病すると100%死亡するという狂犬病が韓国まで迫っていて日本に来るのは時間の問題ということが驚きでした。また、そのことについてアンテナを張っておく必要があると思いました。
- ・大学の文化祭に5億円もお金がかかっているとは知らなかった。
- ・気軽にやっていた感染症のゲームで、実は感染症以外のことを考えさせられていたこと。

私が「うれしかったこと」は...

- ・先生が生徒の命を第一に考えていたこと。
- ・感染症についてきちんと考えて、予防が大事というのはもちろんだけど、いかに人を傷つけないようにするか、と考えている人が周りにたくさんいて嬉しくなりました。
- ・みんながインタビューで出した答えが真面目で、真剣に答えていたことが少し嬉しかったです。
- ・西高の現状についてお褒めの言葉をいただいたことです。学級閉鎖や学校閉鎖になっていないのはやはり一人ひとりが予防を心がけているからだだと思います。私もこれからもしっかりと予防を心がけます。
- ・どの大学に行くのかは関係なく、何を学ぶかということが大切であると言われたこと。

私が「がっかりしたこと」は...

- ・日本には感染症の研究者が他国と比較して少ないということ。
- ・うがいも感染症の予防効果があまりないということと、東京の人たちがリスクが高いのにマスク着用率が低いということ。
- ・東京の方が人も多し、感染者数も多いはずだから、注意している人が多いと思ったけど、実際はそうでもないということ。
- ・マスクをすること、うがいをするなど、どれもあまり予防的な効果がないこと。また、私達の予防法はそれくらいしかないことに少しがっかりしました。しかし、少しでもリスクを下げるためにこれまで同様、手洗い、うがい、マスク着用をきちんとしたいと思います。

私が「必要だとわかったこと」は...

- ・手洗い・うがいを欠かさず行い、なるべく人混みを避けるなど、適切な予防を心がけること
- ・感染症だけでなく何事に対しても、他人事ではなく自分のこととしてとらえ考えること。
- ・自分の気持ちを言葉にすること。
- ・マスクは使い終わったらきちんと袋に入れて捨てること。
- ・何事に対しても危機意識を確立することが大切だということ、他人の迷惑になるかどうかをしっかりと考えたうえで、各自が行動しなければならないこと。また、集団においての決定が優先される場合があるということ。
- ・自分の考えを相手にきちんと伝えることと、いろいろな情報の中から正しいかどうかを判断する力が大切だとわかりました。
- ・修学旅行先でインフルエンザが流行しているからといって実施するかしないかとか、麻疹が流行しているから文化祭を中止にする等の決定はとても難しいと思います。難しい問題だが、全体を考えて判断しなければならない場合もあるということ。
- ・手洗い・うがいの徹底です。今よりもきちんと感染症を予防したいと思います。
- ・自分とは違う他人を新しい視点で受けとめることです。相手の考えを理解する柔軟性が求められると思いました。
- ・今日の質問に対して、自分の知識のなさから判断できないこともあったので、さらに多くの分野の知識を身につけなければいけない。

私が「これから実行しようと決めたこと」は...

- ・受験の時に、目の前の試験監督が咳き込んでいたら、席を移動してもらえるよう勇気を持って言いたい。
- ・自分の意見をしっかり持ち、他人に合わせるのではなく、自ら問題解決のために考えようと決意しました。
- ・まずは、自分が感染症にかからないように、うがい等をきちんとし、万一かかっても他の人にうつさないようにマスクをする等きちんとした対策をします。
- ・自分の伝えたいことはわかりやすく言うことと自分の進路を決断する時、他人の意見はあくまで参考意見として聴くこと。
- ・親、自分、先生方と考え方や見方が違うので、きちんと話し合ったりしたいと思った。
- ・将来、社会に出るにあたり、様々な形で社会に貢献していきたい。また、様々な人々と関わり、いろいろなものを身につけるための努力をしていきたいと思った。
- ・これから受験シーズンなので、学校では毎日マスクを着用するとともに、自らの健康管理をしっかりとしてインフルエンザ等を予防し、さらには周りの人に感染することがないようにする。

私が「その他、書いておきたいこと」は...

- ・今日の講演に参加して、人生についてたくさん学ぶことができました。さらに、先生のお話を聴いて精神的にもとても楽になることができました。ありがとうございました。
- ・今日の講話を聴いて感染症についてどのように対応したらよいか分かりました。日頃から感染症にかからないように予防しなければいけないということがよく分かりました。
- ・今日の講演は自分にとって、とてもためになる話でした。まだまだ感染症に対して自覚が不足しているなあと再認識しました。

- ・世界中には、どんな恐ろしい伝染病があるのか詳しく知りたいと思いました。今日の講座をこれからの生活に活かしたいと強く思いました。ありがとうございました。
- ・今日の講演会はゲーム形式でとても聞きやすかったです。ありがとうございました。
- ・感染症に関して知らないことがたくさんわかりました。その一方で、新型インフルエンザは弱毒性なのに死者が出てしまうのかという疑問も持った。
- ・これから流行しそうな感染症等もう少し詳しく知りたいと思いました。
- ・今回の講演でいろいろなことがわかりました。感染症に対する注意や予防法等についての知識が増えて良かったです。講師の先生には大変感謝しています。ありがとうございました。
- ・ゲームに参加することで楽しかったし、みんなで講演に参加したという実感が湧きました。
- ・今日は今まで参加したことがないような参加型の講演で、楽しみながら感染症に関する知識を増やしてきました。今日は最後まできちんと話を聞けたと思います。
- ・今日はゲーム形式の講演で、楽しく学ぶことができてよかったです。自分で体験しながら話を聞いたのできっと記憶に残ると思います。この講演を聴くことができて本当によかったです。
- ・講師の先生、楽しい講演会をしてくださって、ありがとうございました。おかげで、自分達が何をすればよいのか「なるほど～」と思うような知識をたくさん学習でき、充実した時間が過ごせました。本当にありがとうございました。
- ・ゲーム形式ですごくやりやすかったです。このようなゲームの開発を進めるということに取り組まれていると聞いて、珍しかったので興味を持ったし、すごいなと思いました。これからも研究頑張ってください。
- ・ゲームをしながらの講演会だったので集中して聴けてよかったです。画期的な講演会ありがとうございました。大学受験の時、目の前の監督者が咳き込んでいたら座席をかわってもらおうと思います。ありがとうございました。
- ・「正解はない！」とおっしゃってたが、時と場合により正解（答）を出さなければならない場合も出てくるのではないかと思う。
- ・今日はありがとうございました。自分の身を守るために感染症の知識を得ることは必要だと感じました。また、人に頼らず、自分で考えて判断することの必要性も感じることができました。
- ・「以心伝心はない」と書かれていたのには「確かに…」と納得しました。伝える技を覚えることが大切だと思いました。

## (2) 保護者感想

- ・インフルエンザ流行の今、まさにタイムリーな講演ありがとうございました。「YES」「NO」の選択に真剣に迷いました。自分の人生をも左右する選択、子どもたちも今後、そのような時期が来ると思います。まさにそのときの一助となると思います。
- ・最近の中・高生は何かにつけ「面倒くさい」という子が多いですが、自分自身のことはきちんと考えたり、調べたりしなければならないという点で、堀口先生からはとてもいいお話を聴かせていただきました。
- ・感染症についての正しい知識を皆に知らせることになってよかったです。感染症ゲームを通して、人生の決断にまで繋げる展開になるとは予想していませんでした。楽しく聴かせていただきました。
  - ・私が子どもに 言いたいことを堀口先生に言ってもらった。「人と比較しない」「自分は自分」と言い聞かせたい。これからの人生に向かっていく言葉、メッセージとして大変よかったです。
- ・感染症の話から、これから子どもが社会に出て行く上での大切なことなど教えていただきました。生徒、先生、保護者の考えの違いもわかり面白かったです。
- ・カードを使って工夫された講演会で、ただ聴くだけではなく頭も体も使って勉強になりました。
- ・体験型講演会は初めてで面白かったです。声が良く、聴き取りやすかったです。